

地域別教育懇談会にご参加ください

日本工業大学後援会 会報

第 118 号

発行 / 日本工業大学後援会

埼玉県南埼玉郡宮代町学園台四一
五(〇四八〇)三四一四一一(代)
令和四年七月三十日
<http://nikkouenka.jp/>

R100

就任のご挨拶



会長 安齋義直 (R4東京)

令和4年度の後援会会長に就任いたしました安齋です。宮下前会長より大任を引き継ぎ、身の引き締まる思いでございます。後援会の歴史の方々の活動と意思をしっかりと受け継ぎ、皆さまのご支援とアドバイスをいただきながら、日本工業大学の益々の発展と、学生の皆さんが技術の向上、学習に集中できる環境づくりのため、尽力してまいりたいと考えておりますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

さて、2018年度中に始まった新型コロナウイルス感染症もすでに3年が経過し、当初の想定を超える期間・規模で依然影響が続いております。本大学におかれましても、前年度はほとんどのイベントが中止もしくはオンラインでの開催となり、卒業式、入学式も学生のみ出席で行われるなど、学生はもちろん保護者の皆さまにとっても大変フラストレーションがたまる年でありました。

一方で海外に目を向けますと、欧米諸国においては、ワクチンの接種が進むにつれて、すでにコロナは過去のものと言わんばかりに、マスクの着用義務の解除が徐々に

進み、リゾートにはバカンス客が集中するなどアフターコロナに向かつて急速に動き出しています。新年度がスタートしてすでに3か月が過ぎようとしています。ようやく日本においても、コロナとの生活を良い意味で受入れた、ポストコロナ時代の生活様式が始まりつつあります。

コロナによる影響は、危機をもたらした一方、生活や企業の活動にも急激な進化をもたらしました。企業は活動を維持するため、急激なIT化を進め、日本では当分先と言われてきた、オンライン会議、テレワーク、SaaS経由での電子承認の書類処理といったオンラインでのコミュニケーションが当たり前のように行われるようになり、ペーパーレス化も一気に浸透しました。

急激なIT化は、従業員の企業への帰属意識の希薄化をもたらしました。また、労働人口の減少による人手不足や離職・転職が容易に行える環境も拍車をかけ、多くの企業が人材の流出に悩み、中には後継者不足で事業の継続が困難なる企業も出てきています。大学においても長引くコロナにより友人・先輩・後輩との繋がりが分断され、先生との接触機会も限定される中、目的を見失い、今後の学生生活に悩んでいる学生もおられると思います。このことについては、大学側でも同じ認識を持たれており、学習、就職活動の支援だけでなく、「学修支援センター」や「学生相談室」など、生活や心のケアについてもしっかりとした体制を組んでいただけていることが分かり安心できました。

後援会におきましても、学生の皆さん、大学のサポートをしつかり行えるよう、皆さまからお預かりした大切な会費の使途として「NIT100円朝食」の支援や、保護者の皆さまの心配を解消するための「地域別教育懇談会」の開催など、精一杯活動してまいりたいと考えております。ぜひ後援会の活動に気軽にご参加いただき、大いに活用していただければと思います。

最後に、会員の皆さまにおかれましては、今後とも後援会活動へ変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和4年度 定期総会開催



第45代会長に安齋義直氏を選出

5月22日(日)午後1時より、大学学友会館ホールにて令和4年度後援会定期総会が開催されました。

当日は80名の会員(委任状出席は1,455名)、成田学長以下大学執行部・各課長が出席。小平副会長を議長に選出して議事を進行了しました。

第1号議案「令和3年度事業報告を熊谷副会長より、第2号議案「令和3年度決算報告」を芦垣財務より説明。「同監査報告」を松本監事より報告。以上一括審議の上、拍手により承認されました。次に、第3号議案「令和4年度事業計画案」を高橋総務より、第4

員は以下の通り選任されました。

- 会長 安齋 義直(東京)
 - 副会長 高橋 仁(福島)
 - 〃 松本 伸一(埼玉)
 - 〃 本田 和之(神奈川)
 - 総務 櫻井 和博(山口)
 - 〃 藤枝 裕子(千葉)
 - 財務 安田 泰久(神奈川)
 - 〃 沼尾 正晴(埼玉)
 - 監事 磯見 浩之(石川)
 - 〃 西山 聡(新潟)
- 総会終了後、一般会員は学内施設を見学。学友会館ホールでは理事會が行われ、退任理事に対し、成田学長より感謝状と記念品が贈呈されました。

4支部が合同で新入会員説明会を開催

【昨今、大学入試が多様化し、新年度が始まるまで新入生が確定しないことから、これまで3月に実施されて



支部活動再始動へ

いた「新入会員説明懇談会」を4月以降にシフトしなければいけない状況にあります。また、追い打ちをかけるように、この数年コロナ禍の影響により、支部会員が集まらない状況が続いていました。しかしながら、支部活動には、やはり新会員へのアプローチは必須であり、関東近県の4支部（群馬、栃木、茨城、千葉）の支部長が協議し、初の試みとして、合同での新入会員説明会を実施することを決定しました。その後、本部事務局と調整を重ね、5月14日（土）、大学5号館での開催に漕ぎつけました。

学生生活について、教務課長より履修進級など教学に関する説明を聞いた後、学内見学ツアー、支部会を行い、昼食は食券が配られ、学食で一番人気のからあげ定食をいただきました。

6月18日（土）、大学において「新任理事研修会」が開催されました。今年度に就任した新任理事24名の内13名が出席し、会長、学長の挨拶の後、大学と後援会の歴史や教学・学生生活・就職等について各部長の話も聴講しました。その後、2時間かけて学内の施設設備を見学。運良くSLの運行日と重なり、走るSLも見ることができ充実した研修会となりました。

支部連絡協議会

6月19日（日）、大学において支部連絡協議会（支部長会）が開催されました。まず、本年度の地域別教育懇談会の開催について事務局より説明したあと、出席した支部長から、支部の活動や課題などについて報告をいただきました。

蔵王支部で成田学長が講演



5月8日（日）に蔵王支部において成田学長、竹内学長補佐の講演及び新入会員説

明会・総会が行なわれました。会場は山形テルサの大会議室を使用し、成田学長から「日本工業大学の実工学教育と学修支援について」と題し、実工学教育とは何か、成長する4年間にするためにどのようにすべきか等の説明が行われました。また、竹内学長補佐からは「本学の就職支援と現状について」の講演が行われました。出席した20名の会員の皆様には熱心に聞いていただきました。懇談会では自己紹介、活発なご意見、ご質問もあり、有意義な交流と親睦が図れました。

東中国支部・西中国支部が統合して「中国支部」に



東中国支部（鳥取・岡山・昭和55年9月20日設立）と西中国支部（広島・島根・山口、昭和56年9月13日設立）は、これまでも合同で行事を実施していましたが、会員数の減少に伴い、令和4年4月1日、「中国支部」として統合しました。支部長は西中国支部長であった黒飛光子氏が引き続き務めます。会員数は14名、対象地域は左記の5県です。是非とも支部活動にご参加ください。

新任理事研修会



SLをバックに記念撮影

支部活動の課題は、その規模や地域性によって様々であり、一律な解決策はないため、ご要望があれば、本部事務局が支部の会合に赴き、支部活動の活性化に全面的に協力していく旨が伝えられました。支部長の皆様は、支部活動の素晴らしさや必要性を感じ、少しでも多くの会員に支部を利用してもらいたい、思いを共有したいという熱意にあふれています。会員の皆様には、支部からの案内が届きましたら是非お気軽にご参加いただくことを切にお願いしたいと思います。

後援会は「100円朝食」を支援しています

大学では学生の心身の健康を願って「NIT100円朝食」の提供を開始しました。後援会は、本学園の寄付金制度「みらい募金」を通じてこれを支援しています。



栄養満点、おいしい朝ごはんがなんと100円で食べられます!!

日本工業大学では2022年度の新学期から、学生の皆さんに朝食の提供を始めました。メニューは1日2食に購入し、1日2食の朝食とさせていただきます。



販売時間 火～金曜日 ※平日の授業中、授業終了後は販売しません。
 価格 朝 午前8時00～9時00分
 昼 10時から12時（平日）12時～1時（土曜）
 価格 全 100円・1食
 販売開始 1日あたり100食限定（1人1食1日限定）

日本工業大学 学生支援課 TEL. 0480-33-7568 (課内) E-mail: gpa@nit.ac.jp